

# さくら



令和8年1月19日(月)

## 置かれた場所で咲く



一年前の今頃のことです。ある教え子から一本の電話がかかってきました。私が彼の担任をしていた頃から、理科や数学、技術といった教科が得意な生徒でした。中学卒業後も理系への興味は衰えず、高校卒業後は大学の工学部へ進学。その後、空調機器メーカーに就職し、技術者となり頑張っていました。

時折、近況を知らせてくれる彼ですが、その日はいつもと違ったようです。よく聞けば、会社から思わぬ人事異動の内示を受けたということです。

「4月からは、サービスエンジニアとして勤務してもらう」

それは、これまで彼が情熱を持って取り組んできた研究開発の仕事ではなく、顧客の元へ足を運んで対応する、営業職の側面も持つ職種でした。「なぜ自分が」、「専門性を見られなかったのではないか」、湧き上がる疑問と不満を、彼は正直に上司へぶつけたそうです。

そんな彼に、上司は次のように諭したそうです。「人事は組織全体を考え、適材適所で決めている。組織の活性化と君の成長を期待しての異動だ。それが不服と言うなら、君は自分のことしか考えていないことになる」

この言葉に、彼はハッとしたといいます。そして次のように言いました。

「いつも後輩に『組織人であれ』と偉そうに言っておきながら、自分こそが思い上がっていた。会社は、私の適性を自分以上に深く見てくれていたのだと気づきました」

私は彼に、次の言葉を贈りました。「置かれた場所で咲くことが大切。それは、決して仕方がないと諦めることではない。そこを自分の居場所と定め、笑顔で周りの人を幸せにすること。それが結果的に、君が志した『技術で社会に貢献すること』につながるはずだから」

電話の最後、彼は「もう一度、初心に帰って自分の力を試してみます」と、晴れやかに言ってくれました。

皆さんも、今後の人生で、自分の望まない環境に身を置くことがあるかもしれません。しかし、そこには必ず、あなたを必要とする人がいること、あなたを成長させる「何か」が隠されているということを忘れないでください。

学校ホームページで、日々の教育活動のようすを公開しています。どうぞ、本校ホームページを閲覧してください。

